

専攻建築士紹介



ケン三枝設計室
一級建築士事務所

三枝 健司

〔設計専攻〕

静的アピールから動のアピールへ

「専攻建築士」とはなんぞや!? これが初めて「専攻建築士」という言葉を見聞きしたときの率直な感想でした。初年度だったこともあり最初はその意図するところが十分理解できず、参加するかどうか疑問符を抱いていたこともありましたが、いざその意図が理解できると「これはすぐやらねば!」と意識が変化し、開始初年度での専攻建築士登録を果たしました。

国家資格としての「一級・二級・木造建築士」は、設計・工事監理等業務のできる範囲を資格として規定していますが、実際にその資格を持っている建築士が、果たして何を専攻しているのか、何が得意な建築士なのかは、直接その建築士に聞かないとわからないことでした。意匠が得意なのか、構造なのか、はたまた現場において建築士資格を活用している人なのか。私たち建築士同士であってもそうなのですから、一般消費者から見たときにはさらに分からない状態なの言うまでもありません。これを「専攻建築士」として社会に明示するシステムというのは大いに意義のあることです。

ただ今現在としては、一般消費者の方で「専攻建築士」のことを知っている人はほとんどいないと思います。関わりになった建築士の人が「私は専攻建築士です」と名乗らない限り、その人が専攻建築士だと知らないままに業務が終了してしまいがちです。でも、だからこそ、登録している私たち「専攻建築士」がもっと世の中に向けてアピールしていくべきでしょう。いずれ「専攻建築士」の社会的認知度が上がってきたとき、専攻建築士であるか否かが受注できる・できないの分かれ道になることも十分考えられます。

昨年の構造計算書偽造問題に端を発し、建築士免許や建築士事務所のあり方の見直しを迫られるなど、建築界は今、大きなターニングポイントを迎えているように思えます。しかしどのような状況・制度になるにせよ、変わってはならないことが一つだけあります。それは「誠実に、お施主様のために」という気持ち・心持ちです。これなくしていい建築・いい設計はできないでしょう。「専攻建築士」であること、またあり続けることで、この気持ちを持ち続けて行けると思っています。また、専攻建築士となっている方一人一人がこうした意識を持ち続けることにより、一般消費者への「専攻建築士」の認知・浸透が少しでも早まれば、と願っています。